2019 7月

スクールホットライン

全国歯みがき大会

From 豊山小学校

「全国の小学生のみんなに聞きたい！『歯みがき』はいったい何のためにやるのかということを！」

博士のこんなメッセージからスタートした「全国歯みがき大会」。豊山小学校では、5年生を対象にして、歯や口腔内の健康について学んでいます。今年もクイズやデンタルフロスの実践を通して、楽しく学習を進めることができました。

始めは、歯ぐきの健康についてです。2枚の写真を見比べて、歯の白さ、歯ぐきの形、歯ぐきの色によって、顔の印象が全く違うことに気付いた子どもたち。歯肉炎になると、一気に何歳も老けたかのように見えてしまい、顔つきまで変わってしまうことにとても驚いた様子でした。歯肉炎の原因は、歯の表面についている白くネバネバしたものです。その正体は、プラーク（歯垢）という細菌のかたまりです。しっかりと歯みがきをしてプラークコントロールをしないと、歯肉炎になってしまうことを学びました。

次は、歯肉炎に打ち勝つための方法、歯みがきの仕方についてです。歯肉炎になっても、軽い症状であれば、歯を磨いてプラークを落とすことで、早ければ3日、一週間もあれば自分で健康な歯ぐきに戻すことができます。それを聞いた子どもたちは一安心。早速歯ブラシとデンタルフロスを使って、歯みがきに取りかかりました。歯みがきをするときの3つの基本、①歯ブラシの毛先を歯の面にきちんと当てる②小さく動かしてみがく③軽い力でみがくことに、鏡を見ながら挑戦しました。仕上げはデンタルフロス。これで完璧です。

最後に、大人になっても健康な歯と歯ぐきを保つために「歯みがきをやりきること」、そして、未来の自分のために、「毎日やりきること」を未来宣言カードに書きました。歯と自分自身をみがこう！という思いをもって、子どもたちは「全国歯みがき大会」を終えることができました。

私の航空史

空飛ぶお化け、B-29より大きい九二式重爆撃機飛ぶ（上）

岡野允俊

昭和2年（1927年）、巷ではリンドバーグが大西洋無着陸横断飛行に成功し、飛行機に対する関心が高まっていたその頃、ようやく自分の足で歩き出した三菱の航空機事業は、「三菱内燃機製造㈱」から「三菱航空機㈱」へと変わり心機一転、さらに新型機の開発に打ち込もうと張り切っていた矢先、世界は不況のどん底に突入してしまいました。

第一次大戦による好景気もつかの間、その反動による不況が続き、ついに昭和4年（1929年）には世界経済恐慌の嵐が吹きまくり、日本の経済活動は停滞し、倒産、失業が続発しました。その上、軍縮条約によって軍艦建造費の緊縮にあい、造船業を主力とする三菱は大きな打撃を受けてしまいました。しかし、生きる道はありました。建艦費の削減はその分航空予算にまわったのでした。つまり、船のかわりに飛行機を造って受注を確保できたのです。

創設期には矢継早に各種の海軍機を造り、好スタートをしたのですが、昭和に入ってからその競争試作がとんと振るわなくなってしまいました。三菱にとって最も痛手となったのは艦上戦闘機で敗れたことでした。海軍の重要機種で、しかも発注量の多い艦戦（艦上戦闘機）、艦攻（艦上攻撃機）は、かつて三菱製のものがほとんどを占めていたのですが、昭和2年の競争試作で他社に敗れて以来、後塵を拝する立場になってしまいました。

このとき、三菱はあくまでも日本人の手で開発した飛行機を造り出していたのに対し、他社は輸入機に少し手を加えた作品を出したのです。結局、スピードの点で三菱は敗れてしまいました。海軍としても決して模倣を薦めたわけではないのでしょうが、やはり、より高速の飛行機を採用せざるを得なかったのでしょう。